

# いそファミ通信

2014年8月号



梅雨が明けて暑い夏が始まりました。

元気に遊んでいる子供たちも寝苦しい熱帯夜が続き、日中の疲れが体調に  
でやすい時期になります。

そんな時期に注意して欲しい感染症をお伝えします。

## 《手足口病》

その名の通り、口・手・足に水疱状の湿疹ができるウイルス感染症の病気で  
す。原因になるウイルスはいくつかの型があるので、何度もかかってしまうこ  
とも珍しくありません。湿疹は痛みやかゆみはありませんが、口の中の水疱  
が破れると痛みがあり、食欲が低下する事があります。脱水にならないよう  
に、のど越しの良い物を工夫して食べさせてあげて下さい。水疱は通常は3  
～7日程度で消失してきます。かさぶたになる事はありません。ただし、水  
疱から直接、感染する事があるので触らないようにして下さい。

病気の始まり頃に微熱を伴うことがありますが、1～2日でだいたい下がり  
ます。

基本的に予後は良好な病気です。



## 《ヘルパンギーナ》

代表的な症状は、38度～40度近い高熱が数日間続く・口の中に口内炎や  
複数の水疱ができる・のどやその奥の方に炎症が起こることです。

高熱や口の中の痛みに伴う脱水を防止するために、イオン飲料や湯さましな  
ど刺激の弱い水分補給を心がけて下さい。

発熱に関しては、2～3日程度で徐々に下がりますが、長期間にわたって  
下がらない場合は診察を受けて下さい。

大人が症状を発症する多くは子供からの2次感染で、免疫力が低下してい  
るいわゆる体調不良の時に感染を起こしやすくなります。39度を超える高熱  
などやや重い症状が続く事もあります。

手洗いやうがいをし、2次感染を起こさないように注意しましょう。

## 《咽頭結膜熱》

昔はプールの水を介して感染することもあったことから「プール熱」とも呼ば  
れている「アデノウイルス」というウイルスによる感染症です。急な発熱で発  
症し、のどの痛みが現れます。また、結膜炎に伴って、充血や目の痛み、か  
ゆみ、目やになどの症状があります。他にも腹痛や下痢を伴うこともありま  
す。このウイルスは感染力が非常に強いので、2次感染を防止するために、  
できるだけ密接な接触は避け、こまめに手洗いやうがいをしましょう。また、  
タオルなどの共有も避けて下さい。また、主な症状がなくなっても、2日間を  
経過するまでは保育園や学校はお休みになります。

基本的には予後の良い病気ですが、まれに肺炎など重症化することがあり  
注意が必要です。

## 《溶連菌感染症》

溶血性レンサ球菌という細菌によっておこる感染症です。発熱やのどの痛み  
嘔吐から始まり、風邪と症状が似ています。その後、かゆみを伴う赤く細かい  
湿疹が体や手足に現れたり、舌に莓のようなブツブツが出たりします。熱が  
下がると手足の皮がむけることもあります。溶連菌を完全に退治し、重大な  
合併症を起こさないためには、症状がなくなっても10日～2週間ほど抗生物  
質を飲み続けることが必要です。

腎障害の合併症を起こす場合があるため、4週間後に尿検査を行う必要が  
あります。この検査を行うことで、溶連菌が完治できたかどうかわかります。

受診日とその翌日は登校・登園はできません。抗生物質を飲んでから24時  
間経つと、感染力はほとんどなくなります。

楽しい夏休みを過ごすために、外から帰ったらうがいと手洗いをしましょう。